

令和2年度 栄養教諭研修会 講演動画

国立大学法人 上越教育大学大学院 学校教育研究科 臨床・健康教育学系 教授・学長補佐 野口孝則先生に「学校の食育と個別指導における評価と改善」という演題で講演していただきました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演の動画を愛知県栄養教諭研究協議会ホームページ上で、令和3年2月24日（水）～3月24日（水）の期間配信しました。野口先生には、令和元年度愛知県学校食育推進研修会の講演に引き続き、講師をお願いしました。

講演動画1 やりっぱなしの食育からの脱却

食に関する指導の全体計画、授業実践、地産地消、家庭との連携等、栄養教諭の取組はすべてPDCA サイクルで評価することができる。例えば、食に関する指導の全体計画に備考欄を作成し、実施状況・栄養教諭との関わり等を記入すれば、評価シートとして活用ができること、事前に栄養教諭から学年に応じた学級担任用の献立表で情報提供し、給食の時間の指導につなげてもらうことなど、学校で食育を進めるために具体的な方法を示していただきました。栄養教諭の存在価値を高めるためには日々の実践の記録をとり、児童生徒の変容を数値で捉えることが大切です。ワークシートの自由記述欄から数値で評価をしていくためには、記述にあってほしいキーワードを決め、そのキーワードが含まれているかの数によって、何割の児童生徒が理解できたか数値化できることを学びました。

講演動画2 データで示す食育の評価方法

栄養教諭の専門性を生かすためにも、毎回授業や給食の時間の指導を評価し、見直すことが大切であることが分かりました。数値で評価することの必要性や、食に関するアンケートの調査項目を考える際、知りたいことを調査するためのポイント、食育の評価方法の視点などについて具体例を挙げて教えていただきました。今後の実践に生かしていきたいと思っています。

講演動画3 具体的なデータ解析方法

会員からの事前質問に回答していただきました。エクセルでピボットテーブルを活用した集計やグラフの作成方法をサンプルのデータを使って具体的に教えていただきました。また、食育カルテや個別指導の記録から、指導前後の変化を見せていただき、指導の有効性を確認できることが分かりました。記録することによって、栄養教諭の指導の効果の数値化ができるのだと感じました。

《会員の声》

- ・ オンデマンド型の研修ということで、何度も戻して聞き直すことができ、充実した研修でした。先生に教えていただいたワークシートやアンケートの評価を活用しながら、子どもたちのためになる食育を行っていきたいと考えています。
- ・ 来年度の食に関する全体計画の作成や実践に取り入れられることが多くあり、「もっと聞きたい」「繰り返し見たい」と思える充実した内容でした。新たな視点と具体的な改善方法を提示してくださるので、前向きにチャレンジしてみようという意欲がもてました。また、私たちの事前質問にすべて答えていただきありがとうございました。

免許更新講習や他の研修でも野口先生からご教授いただける機会があれば、参加したいという声もあがりました。